花と緑で 心身機能を回復

花や緑、園芸作業の心地よさを活用して、高齢者や障害者のストレス軽減や心身機能の回復を目指す園芸療法士の養成講座が兵庫県立淡路景観園芸学校（淡路市）で開かれている。園芸が阪神大震災の被災者の心のケアに効果があったことなどから、米国の制度をモデルに開講した公立校唯一の指導者養成コースだ。

園芸療法士を養成

兵庫の県立校

園芸療法ボランティアの育成講座で芝人形を作る参加者ら＝兵庫県淡路市の県立淡路景観園芸学校

同療法士は民間資格なので私立大などにも独自の養成講座があるが、同校の卒業生は知事認定の「兵庫県園芸療法士」として福祉施設などで活動する。講座は全寮制で1年間で園芸と福祉の両方を学ぶ。授業だけでなく、病院や福祉施設で1000時間（来年度入学から800時間）の現場実習が必修で、2002年以降、120人を養成した。

20～60代までと受講者の年齢層は幅広く、県外出身者も多い。北海道や沖縄県から入学する学生もいる。12年4月から2年制の通学コースも開講する。他に園芸療法士を補助するボランティアの養成講座も開いている。

同校園芸療法課程で教える豊田正博兵庫県立大准教授(49)は「座学だけでなく、実体験を伴った経験が必要」と教育方針を語る。趣味のガーデニングではなく療法として園芸を行うには、疾患や身体機能に応じた指導や観察の専門知識が必要となる。卒業生で同校職員の上地あさひさん(25)は「寮生活には覚悟が要りますが、楽しいですよ」と振り返る。

今年6月には兵庫県小野市の老人ホームで、植物の葉を使ってエコバッグに色を付けるプログラムが行われた。同校出身の園芸療法士近藤智美さん(34)の指導で、11人のお年寄りが、色とりどりの絵の具を塗った葉を無地の布袋に押し付けて、色と形を写し取った。季節感を大切にしながら、一つの作品を完成させることで、満足感や達成感を味わってもらうのが狙いだ。

参加者の疲労を考慮してプログラムは1時間程度。豊田准教授は「園芸療法のプログラムは基本的にバリアフリー。心身の状態に応じてやり方を工夫すれば、子供から高齢者まで、誰でも楽しめますよ」と話している。

高齢者への園芸療法。中央が近藤智美さん＝兵庫県小野市の老人ホーム

平成23年9月4日(日)
上毛　新聞　[✓ 朝]　夕
(群馬)　頁　版